

⑫ 公開特許公報 (A)

平3-251163

⑬ Int. Cl.⁵

A 24 F 19/00
 B 65 D 30/02
 33/00

識別記号 庁内整理番号

G	8114-4B
	8208-3E
C	6833-3E
A	6833-3E

⑭ 公開 平成3年(1991)11月8日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 煙草吸いがら入れ用袋の製造法

⑯ 特願 平2-48869

⑰ 出願 平2(1990)2月28日

⑱ 発明者 小松重治 東京都杉並区桃井1丁目24番6号
 ⑲ 出願人 株式会社映広企画 東京都港区赤坂3-12-1 俱会ビル
 ⑳ 代理人 弁理士志村正和

明細書

1. 発明の名称

煙草吸いがら入れ用袋の製造法

2. 特許請求の範囲

紙の一方面と、裏面に印刷を施したブレンセロファンの印刷面を重ね合せ、紙の他方面に、アルミ箔を重ね合せてこれを一体に貼着し、該アルミ箔の面にポリエチレン樹脂を塗布して形成した不燃材シートの上辺側を心もち、アルミ箔のポリエチレン樹脂塗布面に接して折り返し、不燃材シートの下辺側を、上記折り返した上辺とを接して折り返し、その両縁辺を加熱圧着して袋体となすとともに、該袋体の上辺に平行して、上記上辺と下辺との接した箇所を線状の開口としたことを特徴とする煙草吸いがら入れ用袋の製造法

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は使い捨ての煙草吸いがら入れ用袋に関するものである。

(従来の技術)

本発明と同じ考え方に基く煙草吸いがら入れ用袋が実公昭46年第19670号公報、同55年第12708号公報、同61年第24080号公報に開示されている。

しかし、前二者は煙草吸いがら入れ用袋の素材シートである不燃材シートをミラコート紙、トップ紙にポリエチレン樹脂を塗布したアルミ箔等の金属等を貼り合せたものとしている。従って、これに広告その他を印刷しても印刷インキ層を保護する皮膜がなく場合によっては印刷インキ層を傷つけ、商品価値を低下するおそれがある。

又、後者は煙草吸いがら入れ用袋の素材シートである不燃材シートをプラスチックフィルムと紙とアルミ箔とをポリエチレン樹脂を以て貼り合せ、該アルミ箔にポリエチレン樹脂を塗布したものとしている。従って、これに広告その他を印刷しても、前記したところと同じ不都合を生じる。その上、この不燃材シートはプラスチックフィルムをラミネートするので、これを回収して焼却する場合、煙ならびに有害ガスを発し、周囲の環境を阻害するという公害問題をひきおこす虞れを生ずる

不都合がある。

(発明が解決しようとする課題)

本発明は、これらの不都合を解消し、印刷適性をもち、且つ印刷面を保護し、更に、これを回収して焼却する場合でも公害問題をひきおこす虞れのない使い捨て用の煙草吸いがら入れを提供しようとするものである。

(課題解決のための手段)

紙の一方面と、裏面に印刷を施したプレンセロファンの印刷面を重ね合せ、紙の他方面に、アルミ箔を重ね合せてこれを一体に貼着し、該アルミ箔の面にポリエチレン樹脂を塗布して形成した不燃材シートの上辺側を心もち、アルミ箔のポリエチレン樹脂塗布面に接して折り返し、不燃材シートの下辺側を、上記折り返した上辺とを接して折り返し、その両縫辺を加熱圧着して袋体となすとともに、該袋体の上辺に平行して、上記上辺と下辺との接した個所を線状の開口として煙草吸いがら入れ用袋とした。

(実施例)

る接着剤は普通この種素材の接着に用いる接着剤を用いる。この加工によって、プレンセロファン1が実質上印刷インキ層2の保護膜とし、又アルミ箔5のポリエチレン樹脂塗布層4に熱融着性をもたせることになる。これによって実公昭61年第24080号公報に記載されたような紙の表面にプラスチックスフィルムを貼着した不燃材シートと異り、これを焼却しても有害ガス等の発生をしない不燃材シート6が得られる。

次に、上記不燃材シート6を使っての製袋について説明する。

上記不燃材シート6をタテ95mm×2、ヨコ65mm×nの長方形とし、これを、前記アルミ箔5のポリエチレン樹脂塗布層4を内側にして不燃材シートの、ヨコ上辺Aを、ヨコ上辺から5mm下までを内側に折り曲げ、ヨコ下辺を上記同様アルミ箔5のポリエチレン塗布層4を内側にして、前記した折り曲げた上辺Bに平行接觸させて折り曲げる(第2図)。

この操作の後に、上記操作の終った不燃材シート

まず、本発明に用いる不燃材シートについて説明する。

プレンセロファン1の裏面に広告その他の印刷を施す。プレンセロファン1の裏面に印刷を施す理由は、プレンセロファン1の表面は滑らかで印刷インキ層2が何かの衝撃で傷つき或は剥れたりする虞れがあるが、裏面は、目に見えないざらつきがあり、これに印刷を施した場合印刷インキがこれにくい込んで、印刷インキ層2が後になって剥れたりする虞れがない印刷を施すことができるからである。

この印刷を施したプレンセロファン1の印刷インキ層2の面と紙3とを透明接着剤3Aを介して接着し、又、紙の前記プレンセロファンを接着した面と反対面に、ポリエチレン樹脂を塗布したポリエチレン樹脂塗布層4を形成したアルミ箔5のポリエチレン樹脂塗布面の反対面を接着剤3Bを介して接着して乾燥しこれを重合一体とした不燃材シート6を作る(第1図)。

プレンセロファン、紙、アルミ箔の接着に用い

トに対して65mm間隔で平行に狭少巾で加熱圧着操作を行い、次で加熱圧着部7の中心線8をタテ辺に平行して裁断する(第3図)。

この操作によってタテ95mm、ヨコ65mmの袋体の上辺から5mmをへだてて袋体の上辺に平行した線状の開口9をもった煙草吸いがら入れ用袋10ができる(第4図)。

次に、この煙草吸いがら入れ用袋の用法を説明する。

本発明にかかる煙草吸いがら入れ用袋は、上記の如き構成となるので、これを使用する場合煙草吸いがら入れ用袋の両タテ側を拇指と人指し指で押圧すると、前記袋体の上に平行した線状の開口がたるんで口を開ける。

この開口9に煙草吸いがらを入れる。

そして、前記開口は袋体上辺に平行して開口しているので、これを線状に開口側に折り曲げることは容易であり、更にこの折り曲げによって開口を開じることとなるので煙草吸いがらを袋体に密閉封入することになる。

次に機能を説明する。

本発明にかかる煙草吸いがら入れ用袋は上記した不燃材シート6で作ってあるので、前記製袋加工時の加熱圧着操作では不燃材シート6を構成するアルミ箔5に塗布したポリエチレン樹脂層4が加熱押圧によって溶融し、その接着機能を果し、製袋加工が容易である。

又、上記した不燃材シートの外表は実公昭61年第24080号公報に開示された考案の不燃材シートと異なりプラスチックスフィルムでなくブレンセロファンを用いているので、外表は柔か味を感じ、且つ上記加熱圧着操作時に外表を溶けないようなプラスチックスフィルムを用意する必要はない。

尚、本発明の煙草吸いがら入れ用袋の内側はアルミ箔でできているので耐熱、耐火性は十分であるのは勿論である。

〔効果〕

本発明の煙草吸いがら入れ用袋の素材は、上記した不燃材シートを用いるので、これを回収し焼却する場合煙、有害ガスの発生を阻止し無公害の

煙草吸いがら入れとすることができます、且つ、煙草吸いがら入れ用袋の広告印刷等の印刷面の保護膜をもったものとすることができます。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案を構成する不燃材シートの拡大断面図

第2図は、不燃材の折曲げ方を示す断面図

第3図は、折曲げた不燃材に対しての加熱圧着操作と裁断操作を行う状態の平面図

第4図は本考案にかかる煙草吸いがら入れ用袋の斜視図

1はブレンセロファン、2は印刷インキ層、3は紙、4はポリエチレン樹脂塗布層、5はアルミ箔、6は不燃材シート、7は加熱圧着部、8は中心切断線、9は開口

出願人 株式会社 映広企画

代理人 志村正和



